

- 1 主題名 あいてのきもち 2－(2) 思いやり・親切
- 2 資料名 くり (みんなで考える道徳 1年 日本標準)
- 3 ねらい 身近にいる人に温かい心で接し、親切にする心情を養う。

#### 4 主題設定の理由

##### (1) ねらいとする道徳的価値について

よい人間関係を築くには、相手に対する思いやりが不可欠である。思いやりとは、相手の立場を考え、自分の思いを相手に向けることである。そして、具体的には温かく見守り接することや、相手の立場に立った励ましや援助などを含む親切な行為として表れることが期待される。友達と協力し、一つのことをやり遂げていく中で、児童は相手を思いやり、自分が相手から認められる喜びを体験できる。しかし、自分の好き嫌いや損得にとらわれ、相手の立場や気持ちを無視してしまうこともある。自分勝手な言葉や行動が相手を傷つけてしまうことに気付かせるとともに、思いやりをもって相手に接することや、仲良く生活することの素晴らしさに気付かせることが大切である。

##### (2) 児童の実態について

本学級は、元気で、個性豊かな児童が多い。休み時間には、運動場やなかよしホールで元気いっぱい遊んでいる。全体で行動するときには、自分勝手なことをしてはいけないという意識をもっている児童が多く、相手を思いやったり、困っている人を助けてあげたりしたいという気持ちももっている。運動会では、走るのが遅い子を真ん中にして走ったり、二人で手を繋いで協力して走ったりしていた。また、遠足では、一人にならないように、友達を誘って一緒に弁当を食べている姿が見られた。しかし、休み時間の様子を見てみると、自分のことで精一杯で、相手のことを思いやる余裕がなくなり、口論やけんかになることもある。また、遊びに混ぜてもらえないと泣いて訴えてくる児童もいる。そうしたとき、お互いの言い分を聞いて仲直りさせるようにしている。自分の主張だけでなく、相手の言い分も聞いて仲良く生活することの大切さを考えさせていく必要がある。

##### (3) 資料について

本資料は、話としては完結しておらず、児童がどのように解決したらよいかを考えさせる終わり方になっている。3匹でくり採りに出かけ、「りすきち」と「りすこ」はくりを採り、「りすたろう」はかごを持ってくりを集め、帰りも重いかごを持って帰る。しかし、「りすきち」と「りすこ」が2匹でくりを分けようとし、「りすたろう」が怒ってしまう話である。「りすきち」と「りすこ」が2匹でくりを分けようとしたが、「りすたろう」もかごを持って2ひきが採ったくりを集めたり、重いくりが入ったかごを持ち帰ったりしている。「りすたろう」も働いていたことに気付けば「りすたろう」と喧嘩にならなかったはずである。また、「りすたろう」も「ぼくのかごだから、くりはみんなぼくのものだ。」と言って、かごの上につ伏せになるのはよくない。子どもたちの日常にもよくある出来事である。登場人物たちの気持ちに共感し、自分勝手な言葉や行動が相手を傷つけていることに気付かせ、思いやりをもって相手に接することや、仲良く生活することの大切さについて考えることに適した資料である。

## 5 指導にあたって

気付く段階では、3匹のりすの絵・栗の絵・かごの絵を黒板に貼り、これから読む物語を想像するようにする。3匹のりすの絵には、リボンをつけるなどして3匹の区別がつくようにする。資料を読んだあとの話し合いでは、3匹のやったことをしっかり分からせてから話の内容を考えさせるようにする。

深める段階では、「3匹の言っていることについてどう思いますか。」と問いかけ、「りすきち」と「りすこ」が、一生懸命かごを持ち帰った「りすたろう」の働きや気持ちを思いやる心に欠けていたことに気付かせたい。次に、「けんかをしないためには、どうすればよかったですか。」と問いかけ、どうすることがよい解決の仕方であるか自分たちの問題として考えさせたい。そして、児童が考えた言葉を使って役割演技をすることで、やさしい言葉かけをすると気持ちがいいことに気付かせたい。

見つめる段階では、「今まで友達に優しくしてあげたことはありませんか。」と問いかけ、身近にいる人に温かい心で接したことを思い出すようにする。

あたためる段階では、ゲストティーチャーから嬉しかった言葉かけの体験談を聞き、優しい言葉かけると気持ちがいいことを実感し、相手の気持ちを考えて行動しようとする心構えをもたせたい。

### 【研究とのかかわり】

#### ・「価値について考えるための深めの発問」について

中心発問では、「3匹の言っていることについてどう思いますか。」と3匹の気持ちについて考えさせたい。「りすたろう」の気持ちについて話し合いが進んだ際に、「けんかをしないためには、どうすればよかったですか。」と問いかけ、「りすたろう」もちゃんと働いていることに気付かせ、どのように分けたらよかったですかとも考えさせたい。そして、自分勝手な言葉や行動が相手を傷つけることに気付くようにしたい。

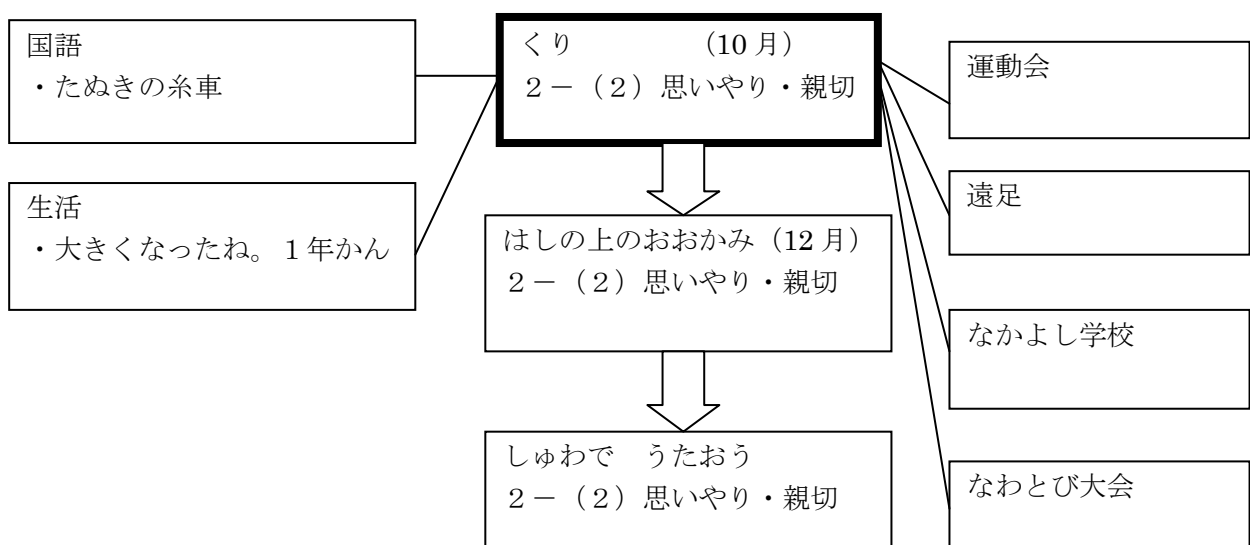
#### ・「児童同士の対話の充実」について

「3匹の言っていることについてどう思いますか。」を考えるときには、ワークシートに自分の考えを書いた後ペアで交流し、相手の考えを理解し、分からないときは、「どうして。」と質問し、児童の新たな考えに気づき、自分の考えが深まるようにしたい。




#### ・「補充・深化・統合」について

日常生活や行事などを通して、思いやりについて学んできているが、十分身に付いていないので、本時は、友達のことを思いやる心情を養うための「深化」の時間として位置付ける。

## 6 他の教育活動と本時の位置付け



7 資料分析

| 場面                              | 登場人物の心の動き   |   | ◎中心発問<br>○基本発問                | ○深めの発問                      |
|---------------------------------|---|---|-------------------------------|-----------------------------|
| ○3匹のりすがくりを採っているところ              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・冬に困らないようにたくさん採ろう。</li> <li>・力を合わせて頑張ろう。</li> <li>・いっぱいあるね。全部持って帰るぞ。</li> <li>・落とさずにかごを持とう。</li> <li>・走ってかごを持っていくぞ。</li> </ul> | 喜び・楽しみ<br><br>                 | ○3匹は、どんなことを考えながらくりを採っていたでしょう。 |                             |
| ○くりを分けようとして、けんかになったところ          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2匹で採ったから、2匹で分けよう。</li> <li>・ぼくのかごだから、くりはみんなぼくのものだ。</li> <li>・りすたろうは、1こも採っていない。</li> </ul>                                     | 不満・怒り<br><br>                  | ◎3匹の言っていることについてどう思いますか。       |                             |
| ○りすたろうがおこって、かごの上につぶせになってしまったところ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくも働いたのに、ずるいよ。</li> <li>・こまったなあ。</li> <li>・りすたろう君、ごめんね。</li> <li>・みんなで分けよう。</li> <li>・ぼくも、「はやく帰れ。」と言ってごめんね。</li> </ul>        | 怒り・不満・困惑<br><br><br><br>思いやり |                               | ○けんかをしないためには、どうすればよかったでしょう。 |

8 本時の学習活動

(1) 準備 3匹のりすの絵, 栗の絵, かごの絵, 挿絵, りすのお面, ワークシート

(2) 展開

| 過程                     | 学習活動             | <教師の働きかけ> ・予想される児童の考え<br>≪中心発問≫での反応の類型化▽□◇   | ◎評価<br>・指導上の留意点  |
|------------------------|------------------|--|--|
| 気<br>付<br>く<br>5<br>分  | 1 これから読む物語を想像する。 | <今日のお話に出てくる絵です。どんなお話だと思いますか。><br>・りすが3匹出てきます。<br>・くりを採るお話だと思います。   | ・3匹のりすの絵, 栗の絵, かごの絵を黒板に貼り, これから読む物語を想像させる。   |
| 深<br>め<br>る<br>25<br>分 | 2 資料を読んで話し合う。    | <3匹は, どんなことを考えながらくりを採っていたでしょう。><br>・冬に困らないようにたくさん採ろう。<br>・力を合わせて頑張ろう。<br>・いっぱいあるね。全部持って帰るぞ。<br>・落とさずにかごを持とう。<br>・走ってかごを持って行くぞ。<br><br><b>≪3匹の言っていることについてどう思いますか。≫</b><br><br>(対話)<br>▽りすたろうが「かえれ。」と怒るのはおかしい。<br>□りすきちやりすこは, くり採りだけが仕事だと思っている。<br>□りすきちが「はんぶんこしよう。」と言ったのはおかしい。<br>□りすたろうがかわいそう。<br>◇りすたろうも重いかごを持ったんだから, 3匹でなかよく分けたらよい。<br><br><b>&lt;けんかをしないためには, どうすればよかったでしょう。&gt;</b><br>・りすたろう君, ごめんね。<br>・ぼくも, 「はやく帰れ。」と言ってごめんね。<br>・みんなで分けよう。<br>・たくさんくりを採ってくれてありがとう。<br>・りすたろう君, 重いのに一人で持ってきてくれてありがとう。 | ・3匹のりすがしたことを確認してから, 話の内容を考えさせる。<br>・3匹が一生懸命くりを採ったり, かごを持ったりしたことを押さえる。<br>・りすきちがりすこに「はんぶんこしよう。」と言ったからけんかになったことを押さえる。<br>・りすたろうのくやしい気持ちを十分考えさせる。<br>・3匹の言葉をもとに, それぞれの言い分を考える。<br>・ワークシートに考えを書いた後, ペアで交流し, 解決策を考えさせる。<br>◎自分勝手な言葉や行動が相手を傷つけることに気づき, 身近にいる人に温かい心で接しようとしている。(ワークシート)<br>・3匹は何と言えよよかったかを考え, 役割演技をする。<br><br>・役割演技をするときは, 登場人物のお面をかぶらせて実感をもたせる。 |

|                                 |                  |  |  |
|---------------------------------|------------------|--|--|
| 見<br>つ<br>め<br>る<br>7<br>分      | 3 これまでの自分を見つめる。  | <p>&lt;今までに、友達に優しくしてあげたことはありますか。&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達が筆ばこを落としたとき、一緒に拾ってあげた。</li> <li>・分からない問題があったときに、教えてあげた。</li> <li>・泣いている友達に、「だいじょうぶ。」と声をかけた。</li> <li>・友達を待ってあげた。</li> </ul> |  |
| あ<br>た<br>た<br>め<br>る<br>8<br>分 | 4 ゲストティーチャーの話聞く。 | <p>&lt;ゲストティーチャーの話を聞きましょう。&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やさしい言葉をかけられると嬉しくなるね。</li> <li>・友達に優しくしたいな。</li> <li>・これからは、相手の気持ちを考えて、友達に優しい言葉をかけたり、困っていたら助けてあげたりしたいな。</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・嬉しかった言葉かけの体験談を聞く。</li> </ul> |

思考の深まりの順に▽□◇

(◇ 目指す児童の思い)

太字：深めの発問

### (3) 板書計画

